

日本パブリックリレーションズ協会会員誌

PRsj

PUBLIC RELATIONS
SOCIETY OF JAPAN

NEWS

2017年12月号

NO. 291

TOPICS

「AIで通訳やPRパーソンは失業しないか？」

(公社)日本パブリックリレーションズ協会 監事 西谷武夫

MESSAGE P3

「新春PRフェスタ2018」2018年1月25日(木)開催

現代中国研究家 津上俊哉氏が特別講演

ATTENTION P5

「PRプランナー1次試験対応講座」を2月開講

ATTENTION P6

「広報PRアカデミー 2017コミュニケーション・ケーススタディ講座

第2回「危機管理広報スタディ」を開講

ATTENTION P7

「第22回PRプランナー資格認定検定試験」

1月19日(金)まで1次試験受験予約申込受付中!

ATTENTION P8

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木6丁目2番31号 六本木ヒルズノースタワー5F

電話(03)5413-6760 ファックス(03)5413-2147

URL <http://www.prsj.or.jp/>

関西支部 〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル3F

電話(06)6344-3002 ファックス(06)6344-3005

発行人:近見 竹彦

12月号 目次

12月～1月のスケジュール		— 1
MESSAGE(メッセージ)	AIで通訳やPRパーソンは失業しないか？	— 3
ATTENTION((お知らせ)	「新春PRフェスタ2018」を来年1月25日(木)に開催現代中国研究家津上俊哉氏が特別講演	— 5
”	広報PRアカデミー2017「PRプランナー1次試験対応講座」を2月開講	— 6
”	広報PRアカデミー2017 コミュニケーション・ケーススタディ講座第2回「危機管理広報スタディ」12月12日開講	— 7
”	第22回「PRプランナー資格認定検定試験」 1月19日(金)まで1次試験受験予約申込受付中	— 8
BULLETIN(活動報告)	第21回PRプランナー資格認定検定試験2次試験を11月12日に実施	— 9
”	特別国際セミナー開催報告「スパイクスアジアから学ぶPRの潮流」(会員限定)	— 11
”	第46回親睦ゴルフ会を11月24日に開催(会員限定)	— 11
REPORT(講演レポート)	第187回定例研究会「CSV時代の社会価値ブランディング ～ 長期的な社会価値の追求がこれからの企業ブランドを高める ～」(会員限定)	— 12
VOICE of PR PLANNER	恋愛ゲームプロデューサーもPRパーソンも本質的には同じ“コンテンツ業”。 「総合格闘家」的プランナーに一緒になりましょう♡	— 13
PR TREND(PRトレンド(関西)	最近の企業不祥事に思う	— 15
協会掲載記事	PRSJ in Media 11月	— 17

12月～1月スケジュール

第 188 回定例研究会	日 時 : 12月1日(金) 12:00～14:00 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49 講 師 : スターツ出版株式会社「オズモール」編集長 倉持志信氏 テーマ : 「『WEB 予約×メディア×体験』オズワールドの取り組み : ～『オズモール』から広がるスターツ出版のメディア戦略」
広報PRアカデミー2017 3次試験対応講座	日 時 : 12月5日(火)、13日(水)、20日(水)、26日(火) 1月10日(水)、15日(月) いずれも 19:00～21:30 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49
第 5 回PRプランナー朝活セミナー	日 時 : 12月6日(水) 8:00～9:30 会 場 : Supership 株式会社ラウンジ 講 師 : ストーリーテリング合同会社 代表執行役員 平野氏 テーマ : 私にもできた！カメラでもスマホでも通じるプロの撮影術
2017 年度「PRアワードグランプリ」 PRアワードグランプリ最終審査会	日 時 : 12月6日(水) 13:30～18:30 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49「オーデトリウム」
広報PRアカデミー2017 コミュニケーション・ケーススタディ講座	日 時 : 12月12日(火) 19:00～21:00 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49 講 師 : 株式会社田中危機管理広報事務所 田中正博氏 テーマ : 「危機管理広報スタディ」
第5回PRプランナーフォーラム in 関西	日 時 : 12月13日(水) 15:30～19:30 会 場 : 市立吹田サッカースタジアム 講 師 : 株式会社ガンバ大阪 営業部長 伊藤 慎次氏 テーマ : Jリーグ・ガンバ大阪のスポーツエンターテイメントにおける 魅力と地域貢献
平成 30 年広告界合同年賀会	日 時 : 1月5日(金) 15:30～17:00 会 場 : 帝国ホテル「孔雀の間」
広報PRアカデミー2017 コミュニケーション・ケーススタディ講座	日 時 : 1月18日(木) 19:00～21:00 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49 講 師 : ブルーカレント・ジャパン株式会社 代表取締役社長CEO 本田哲也氏 テーマ : 「戦略PRスタディ」
PRプランナー資格認定制度 第 21 回 3 次検定試験	日 時 : 1月20日(土) 12:00～16:00 会 場 : 富士通ラーニングメディア 品川ラーニングセンター

来年 1 月 25 日 (木) に「新春 PR フェスタ 2018」を開催いたします。
(詳細は P5 をご参照ください)

12月～1月の理事会・委員会・部会スケジュール

定例理事会	(12 月度)	日 時	: 12 月 14 日 (木)	16:00～18:00
	(1 月度)	日 時	: 1 月 11 日 (木)	16:00～18:00
		会 場	: 一般財団法人 産業人材研修センター 霞会館	
教育委員会	(12 月度)	日 時	: 12 月 13 日 (水)	15:00～16:30
		会 場	: 協会会議室	
資格委員会	(12 月度)	日 時	: 12 月 21 日 (木)	12:00～14:00
		会 場	: 協会会議室	
国際・交流委員会	(12 月度)	日 時	: 12 月 18 日 (月)	16:00～17:30
		会 場	: 協会会議室	
広報委員会	(12 月度)	日 時	: 12 月 20 日 (水)	16:00～17:30
		会 場	: 協会会議室	
顕彰委員会	(12 月度)	日 時	: 12 月 6 日 (水)	アワード終了後
		会 場	: 六本木アカデミーヒルズ 49	
企業部会幹事会	(12 月度)	日 時	: 12 月 13 日 (水)	17:00～18:30
		会 場	: 協会会議室	
PR 業部会幹事会	(12 月度)	日 時	: 12 月 19 日 (火)	16:00～17:30
		会 場	: 協会会議室	
PR プランナー部会	(12 月度)	日 時	: 12 月 15 日 (金)	19:00～20:30
		会 場	: (株)ADKアーツ	

A I で通訳やPRパーソンは失業しないか？

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
監事 西谷武夫

文部科学省の資料によると、世界の総人口 72 億人のうち、英語を公用語・準公用語とするのは約 3 割の 21 億人にも上る。ちなみに、英語を母語とするのは 4 億人だが、それ以外の国で英語を使用言語とする人は、約 3 割増しの 5 億人。実際、デジタルネットや SNS 上での使用状況を含めると、その実態は想像を超えているに違いない。今や、英語は疑いなく世界語である。

ご案内のように、グローバル化が進む中で、日本は英語力強化に、官民挙げて懸命に努力している。さて、その成果はどれほどか。

ある民間団体の最近の調査によると、日本の英語力は何と世界 35 位の惨憺たる事態である。世界第 3 位の国民総生産 (GDP) を誇る日本の英語力が、GDP 12 位のロシア、同 77 位のウラルグアイの英語力程度とは情けない。英語力が、韓国 (27 位)、香港 (30 位)、ベトナム (31 位)、台湾 (33 位)、インドネシア (3 位) より低いのだ。日本経済最盛時代には、韓国よりかなり上であったように思うが、今や突き放されているのが現状だ。

ちなみに、英語力ベストランキングでは、北欧の人口小国、オランダ、デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、フィンランドの順だそうだ。

以前、オランダに住んでいたときの話。来蘭する日本人記者に、オランダは世界で一番英語が通じる国である。だから、英国よりオランダの方が仕事しやすい、と直接投資の売り込みをしていた。英語が相当うまい人でも、イギリスへ行くと大変苦勞する。本場の英語は、話すスピードが減法速いし、慣用語句が違う、慣れた米語とはアクセントもかなり違う、などなどである。

英語は、オランダ人にとっても外国語であり、日本人の癖のある英語も分かって貰える。オランダ人に何かしてもらった時、Thank you. と言うと No thank you と返ってくる。これは学校で習った英語ではおかしい。しかし、この意味は誰にでもよく分かる。これで良いのではないのか。下手な英語で上等なのではないか。

これから、大学入試では、英語は読む・聞く (情報取得) だけでなく、書く・話す (発信) の 4 技能試験に変わる。これは、広報に従事するものとしては、後輩たちのグローバルな発信能力が高まるのだからうれしい限りである。

しかし、文科省の資料では、この 4 技能試験の世界標準になっている TOEFL では、日本はモンゴル、北朝鮮並みの 28 位で、中国、韓国にかなり遅れている現状である。2020 年のオリンピック・パラリンピック大会を迎えるのに、ホテル、レストラン、そしてタクシーの関係者まで、英語の勉強に励んでいる。その中で、我々 PR 関係者の取り組みはどうなのか。

ところで、これからは AI が通訳をしてくれるそうだ。英語のみならず、中国、イタリア語何でもオーケー。確かに、便利にはなる。しかし、それで人と人のコミュニケーションはよいのか。幸せなのか。通訳は失職し、ひいては PR パーソンも不要になるのか心配だ。PR はコミュニケーションであり、人々の生活に不滅のものであると信じて来たのだが。

「新春PRフェスタ 2018」申込受付中 「大胆予測 2050年の日本と東アジア ～チャイナウォッチャーの視点から」 現代中国研究家 津上俊哉氏が特別講演

すでにご案内のとおり、新年1月25日（木）に「新春PRフェスタ 2018」（「新春PRフォーラム」「賀詞交歓会」）を国際文化会館で開催いたします。

今年も新春PRフォーラムと賀詞交歓会で構成される新春PRフェスタですが、PRフォーラムは2部構成となっており、はじめに、日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」「シチズン・オブ・ザ・イヤー」の表彰式を行います。

続いて、特別講演として、現代中国研究家の津上俊哉氏にご講演をいただきます。講演テーマは「大胆予測 2050年の日本と東アジア～チャイナウォッチャーの視点から」。中国ウォッチャー第一人者として定評のある津上氏に、先の見えない世界を読み解いていただきます。ランプ旋風が吹き荒れ自信を失いつつあるアメリカ。盤石な政権基盤を整え超大国への道を突き進む中国。目が離せない朝鮮半島情勢……。 「2050年における日本と東アジア」をテーマに、地政学的考察から大胆予測を行っていただきます。

特別講演終了後、引き続き賀詞交歓会を開催いたします。

新年でご多忙のことと存じますが、奮ってご参加いただきますよう、お願い申し上げます。

記

■開催日時：2018年1月25日（木） 16：00～（受付開始：15：30～）

■会 場：国際文化会館「岩崎小彌太記念ホール」「樺山・松本ルーム」
東京都港区六本木5-11-16 TEL：03-3470-4611
会場地図：<http://www.i-house.or.jp/access.html>

■新春PRフォーラム（岩崎小彌太記念ホール）

□第1部 日本PR大賞表彰式（16：00～17：00）

「パーソン・オブ・ザ・イヤー」「シチズン・オブ・ザ・イヤー」の表彰
・表彰状、トロフィー授与 ・受賞記念スピーチ

□特別講演 講師：津上俊哉氏（現代中国研究家）（17：00～18：15）

演題：「大胆予測 2050年の日本と東アジア～チャイナウォッチャーの視点から」

■賀詞交歓会（ダイニングルーム）：18：30～20：00

■会費 会員社・一般（非会員） 1名 8,000円

※お申込到着後、請求書をお送りいたします。

■お申込み：下記の【お申し込みフォーム】にご記入の上、1月12日（金）までにお申込みください。
お申込みはこちらから → <https://39auto.biz/pr-shikaku/touroku/festa.htm>

広報PRアカデミー2017

「PRプランナー1次試験対応講座」を2月開講

— 1次試験合格に向けた受験準備に最適 —

教育委員会

協会では、新年2月1日から六本木アカデミーヒルズ49で、「PRプランナー1次試験対応講座」を開講します。

PRプランナー1次試験は、広報・PRに関する基本的な知識を50問の問題で検定する試験であり、合格のためには広報・PRにかかわる広範な知識の習得と試験分野に関する系統的な理解が必要となります。基礎的で幅広い分野にまたがる知識を限られた時間で習得することは、受験者にとって容易ではありません。

本講座では、広報・PRに豊富な実務経験を有するとともに、専門的な知識を備えたベテラン講師が試験分野をわかりやすく解説、受講者は合格に求められる知識を効果的に習得できます。

また、講座ごとに毎回25問を掲載した模擬試験問題を提供、受講者はこの問題に取り組むことにより、1次試験の形式や問題のレベル、解答を行う時間配分等を確認することが可能です。

なお、本講座では会場へのご参加が難しい皆様を対象に、パソコンによる受講を可能としたWeb受講サービスも提供いたします。遠隔地に居住の方、業務でご多忙な方もWeb受講により、時と場所を選ばずご自身の都合にあわせて講座を聴講し、受験に向けた準備を進めることができます。

講座の詳細と受講申込みは以下の協会Webサイト「セミナー/イベント」の「PRプランナー1次試験対応講座（冬期）」のページ（下記URL）をご参照ください。

http://event.prsj.or.jp/prp/1st_2017winter



■PRプランナー1次試験対応講座の概要

日程	講座内容	講師	受講料	申込締切
2月1日 (木) 19:00~21:30	・パブリックリレーションズの基本 ・企業経営と広報・PR活動 ・行政、団体等の広報活動 ・広報・PRマネジメント	阿部哲夫氏 (株式会社ブラップ ジャパン顧問 /慶応義塾大学 非常勤講師)	会場受講+ Web受講 一般 31,500円 学生 18,900円 PR協会会員 21,000円	会場受講+ Web受講 1月30日 (火)まで
2月6日 (火) 19:00~21:30	・コミュニケーションとPR ・メディアリレーションズ ・マーケティングとPR			Web受講 講座開始後 でも受けま す。
2月14日 (水) 19:00~21:30	・インベスターリレーションズ ・エンプロイリレーションズ ・広報・PRにおけるインターネット の活用	畑山 純氏 (株式会社エイレックス アカウント マネージャ ー)	Web受講のみ 一般 21,000円 学生 18,900円 PR協会会員 21,000円	Web講座は、 3月9日(金) まで受講でき ます
2月21日 (水) 19:00~21:30	・国際広報 ・企業の危機管理 ・経営倫理とプロフェッショナリズム			

日本PR協会会員社員の受講料は、法人正会員社員、もしくは個人正会員ご本人様のみとなります。

(事務局・真部)

広報PRアカデミー2017

コミュニケーション・ケーススタディ講座 第2回「危機管理広報スタディ」 「クライシス発生・拡大の原理とメディア対応における重要ポイント」 ～六本木アカデミーヒルズ 49 で 12 月 12 日開講～

教育委員会

来る 12 月 12 日、「広報・PRアカデミー2017 コミュニケーション・ケーススタディ講座」第 2 回「危機管理広報スタディ」として、「クライシス発生・拡大の原理とメディア対応における重要ポイント～最近のクライシス事例から学ぶ緊急時対応の適否～」を、六本木アカデミーヒルズ 49 で開講いたします。

企業への信頼を棄損し、最悪の場合その存続すら脅かす企業クライシス。多くの企業はマニュアルを整備するなど平時から備えるにもかかわらず、一度発生した時、その炎は燎原の火の如く激しく燃え広がることも決して少なくはありません。その原因の多くは、火の気の発生とその燃え上がるプロセスを見誤ること。すなわち、些細な事象の評価やクライシス拡大の原理に対する認識、またメディアへの初期対応を誤ることです。企業の存続を脅かすクライシスの拡大を未然に防止するには、初期において適切かつ迅速な対応を行う知見と行動が広報部門に求められています。



講師には危機管理の専門家として知られる田中正博氏（株式会社田中危機管理広報事務所 代表取締役社長）をお招きし、最近のクライシス事例に基づく多彩なケーススタディを行っていただきます。企業がクライシスに見舞われた時、なぜその”芽”を発見できず、拡大を阻止できなかったのか、また厳しい批判の報道につながったメディア対応における決定的な問題点は何か、クライシス発生・拡大の原理とメディア対応における重要ポイントなどについて、事例の分析をとおしてご解説いただきます。

危機管理対応力の強化をめざす多くの広報・PRパーソンの参加をお待ちします。

受講の詳細ならびにお申込は、下記協会・広報PRアカデミーのWebページをご参照ください。

http://event.prsj.or.jp/pr-academy-2017/casestudy_crisis

(事務局・真部)

第1回「企業広報スタディ」を開講

さる 11 月 15 日、「コミュニケーション・ケーススタディ講座」第 1 回となる「企業広報スタディ」を六本木アカデミーヒルズ 49 にて開講しました。

講座では、企業の差別化は、「コミュニケーションモデル」によって体现され、コーポレートコミュニケーション活動を通じてコーポレートブランドのイメージが構築されること、広報機能を「経営そのもの」と捉え、それらの活動を強く意識し経営スタイルとした「コーポレートコミュニケーション経営」などについて解説されました。また、企業コミュニケーションの数々の事例、企業のらしさ(個性)とその浸透についての考え方が示されるなど、企業広報に関する斬新な理解を提示する柴山氏の講義に、受講者の多くが感銘していました。



再 掲

第 22 回「PRプランナー資格認定検定試験」 1 月 19 日(金)まで 1 次試験受験予約申込受付中！ 東京・大阪・福岡で実施！

資格委員会

第 22 回となる PR プランナー資格認定検定試験 1 次試験（実施：2018 年 3 月 4 日(日)）を、東京・大阪、福岡会場で実施します。

日本 PR 協会が認定する「PRプランナー資格認定制度」は、広報・PR の業務に求められる専門的な知識やスキル、職能意識等を検定し資格として認定する、公益法人としてわが国唯一の資格制度です。検定試験は 1 次から 3 次にわたり、さらに書類審査を経て、広報・PR に関する高い専門能力の保有を認定する「PRプランナー」資格を取得することができます。本制度は 2007 年に発足しすでに 20 回の試験を実施、難関を突破し資格を取得した 2,318 名（11 月 1 日現在）の PR プランナーが一般企業、PR 会社、政府機関や自治体等で活躍しています。

受験予約申込は、1 月 19 日（金）までとなっておりますが、定員に達し次第締め切らせていただきますので、予めご了承くださいませようお願い申し上げます。

<PRプランナー資格認定制度／検定制度 1 次試験 実施概要>

試 験 日	2018 年 3 月 4 日（日） 試験は東京・大阪・福岡会場ともに 3 月 4 日（日）午前中に同時実施・終了する予定です。
募 集 定 員	東京：400 名・大阪会場：80 名・福岡会場：60 名
受験応募・申込方法	資格制度 Web サイトで受験予約を行った上で申込書を郵送
受験予約期間	2017 年 12 月 1 日（金）～2018 年 1 月 19 日（金）
申込書送付期間	2017 年 12 月 4 日（月）～2018 年 1 月 25 日（木）当日消印有効
受験票送付	2018 年 2 月 16 日（金）発送
可否通知送付	2018 年 3 月 16 日（金）発送 ・受験申込書にご記入いただいたご住所に、可否通知を発送いたします。 ・合格された方には、2 次試験ならびに PR プランナー補認定申請のご案内を、メールでも 3 月 19 日（月）にお送りします。

<試験時間>

0 9 時 3 0 分	各試験会場に入館できます
1 0 時 2 0 分	指定の教室・座席にご着席ください
1 0 時 2 5 分	注意事項伝達・試験問題配布
1 0 時 4 0 分	試験開始
1 2 時 0 0 分	試験終了

※資格検定試験の詳細は、下記 URL の PR プランナー資格 Web サイトをご覧ください。

<http://pr-shikaku.prsj.or.jp/>

第 21 回PRプランナー資格認定検定試験 2 次試験を 11 月 12 日に実施 東京・大阪・名古屋で、352 名の受験者が挑戦！

教育委員会

11月12日(日)、第21回PRプランナー資格検定2次試験が東京(東京富士大学)、大阪(毎日インテシオ)、名古屋(AP名古屋)で行われました。今回の2次試験では、第1回を除き過去最大となる393名(東京会場:339名、大阪会場:42名、名古屋:12名)が受験申込をされ、当日は352名(東京会場:302名、大阪会場:39名、名古屋:11名)の受験者が受験し、そのうち277名(東京会場:243名、大阪会場:26名、名古屋:8名)が合格されました。また、2次試験の合格率は78.7%となりました。



東京会場:東京富士大学

今回も無事終了することができました。ご協力いただきました関係者の皆様には、厚くお礼申し上げます。

なお、今回の2次試験の受験者および合格者・合格率は以下の通りです。

<第21回 科目別 正答率65%以上>

科目A:CSR、IR、危機管理等、企業経営とコミュニケーションに関する知識

受験者352名、正答率65%以上291名、達成率82.7%

科目B:マーケティング、ブランドマネジメントに関する知識

受験者352名、正答率65%以上292名、達成率83.0%

科目C:広報・PR実務に関する知識

受験者352名、正答率65%以上325名、達成率92.3%

科目D:時事知識

受験者352名、正答率65%以上293名、達成率83.2%

<第21回 2次試験合格率>

全体 受験者352名、合格者277名、合格率78.7%

社会人 受験者332名、合格者268名、合格率80.7%

学生 受験者20名、合格者9名、合格率45.0%

※上記「科目別 正答率65%以上」の人数は、2次試験合格基準となる「全出題数に対して正答率65%以上、かつ各科目の正答率がいずれも50%以上で合格」を満たした人数となり、達成率は、全体での割合として記載しております。

■第21回2次試験(2017年11月12日) 合格率・受験者プロフィール

		PR業/ PR関連業	一般企業 (広報PR関連)	一般企業 (その他)	各種団体	教育機関	自治体	学生	その他	全体
男性	受験者	65名	49名	15名	4名	5名	9名	11名	11名	169名
	合格者	59名	41名	12名	4名	5名	7名	5名	10名	137名
女性	受験者	44名	89名	20名	2名	2名	3名	9名	14名	183名
	合格者	33名	70名	16名	1名	2名	2名	4名	12名	140名
全体	受験者 (全体比)	109名 (31.0%)	138名 (39.2%)	35名 (9.9%)	6名 (1.7%)	7名 (2.0%)	12名 (3.4%)	20名 (5.7%)	25名 (7.1%)	352名 (100.0%)
	合格者 (全体比)	86名 (31.0%)	111名 (40.1%)	28名 (10.1%)	5名 (1.8%)	7名 (2.5%)	9名 (3.2%)	9名 (3.2%)	22名 (7.9%)	277名 (100.0%)
	合格率	78.9%	80.4%	80.0%	83.3%	100.0%	75.0%	45.0%	88.8%	78.7%

		20代	30代	40代以上	全体
男性	受験者	49名	57名	63名	169名
	合格者	37名	44名	53名	137名
女性	受験者	74名	61名	48名	183名
	合格者	57名	47名	36名	140名
全体	受験者 (全体比)	123名 (31.0%)	118名 (33.5%)	111名 (31.5%)	352名 (100.0%)
	合格者 (全体比)	86名 (31.0%)	94名 (33.9%)	89名 (32.1%)	277名 (100.0%)
	合格率	64.8%	79.7%	80.2%	78.7%

受験者	合格者	合格率
352名	277名	78.7%

■2次試験累計(第1回～第21回) 合格率・受験者プロフィール

		PR業/ PR関連業	一般企業 (広報PR関連)	一般企業 (その他)	各種団体	教育機関	自治体	学生	その他	全体
男性	受験者	831名	890名	262名	42名	64名	74名	124名	152名	2439名
	合格者	656名	741名	205名	35名	55名	61名	70名	125名	1948名
女性	受験者	612名	1107名	217名	48名	48名	41名	132名	179名	2384名
	合格者	433名	809名	153名	31名	40名	35名	63名	127名	1691名
全体	受験者 (全体比)	1443名 (29.9%)	1997名 (41.4%)	479名 (9.9%)	90名 (1.9%)	112名 (2.3%)	115名 (2.4%)	256名 (5.3%)	331名 (6.9%)	4823名 (100.0%)
	合格者 (全体比)	1089名 (29.9%)	1550名 (42.6%)	358名 (9.8%)	66名 (1.8%)	95名 (2.6%)	96名 (2.6%)	133名 (3.7%)	252名 (6.9%)	3639名 (100.0%)
	合格率	75.2%	77.6%	74.7%	73.3%	84.8%	83.5%	52.0%	76.1%	75.5%

		20代	30代	40代以上	全体
男性	受験者	655名	1046名	738名	2439名
	合格者	469名	849名	630名	1948名
女性	受験者	892名	1041名	451名	2384名
	合格者	579名	772名	340名	1691名
全体	受験者 (全体比)	1547名 (32.1%)	2087名 (43.3%)	1189名 (24.7%)	4823名 (100.0%)
	合格者 (全体比)	1048名 (28.8%)	1621名 (44.5%)	970名 (26.7%)	3639名 (100.0%)
	合格率	67.7%	77.7%	81.6%	75.5%

受験者	合格者	合格率
4823名	3639名	75.5%

会 員 限 定

特別国際セミナー開催報告

「スパイクスアジアから学ぶPRの潮流」

第一部：特別講演

講師：(株)電通 CDC コミュニケーション・ディレクター 嶋野裕介 氏

テーマ：Inside the Jury Room(講演と入賞作品評価)及びPR部門審査委員長インタビュー

第二部：プレゼンテーション

講師：(株)博報堂 (株)TBWA\HAKUHODO ディスラプションラボ 関谷拓巳 氏

(株)博報堂 第1クリエイティブ局 谷脇太郎 氏

テーマ：ヤングスパイクスPR部門でゴールド受賞に至るまで

モデレーター：(株)井之上パブリックリレーションズ 執行役員 尾上玲円奈 氏

国 際 交 流 委 員 会

特別国際セミナーを11月7日(火)18:30から(株)電通パブリックリレーションズで開催しました。

9月にシンガポールで開催されたクリエイティブフェスティバル「スパイクスアジア」。そのPR部門の審査員をされた嶋野氏。「ヤングスパイクス」PR部門のゴールド受賞者である関谷氏と谷脇氏を迎え第一部・第二部に分けて講演が進められました。第一部は審査基準や日本が賞を獲得するうえで足りないものについて。第二部ではヤングカンヌ予選やヤングスパイクス本選の課題への取り組み方についてご講演いただきました。

当日の参加者は43名でした。

会 員 限 定

第46回親睦ゴルフ会を11月24日に開催

紅葉の中、優勝はスカパーJSAT(株) 岩瀬恵裕氏

P R 業 部 会

11月24日、PR業部会では、2回目の開催となる親睦ゴルフ会を小金井カントリー倶楽部(6,430y Par72)で開催し、6名が参加されました。親睦ゴルフ会は、会員相互の交流親睦を図る協会唯一のスポーツイベントとして毎年春と秋に開催しています。

会 員 限 定**第187回定例研究会****CSV時代の社会価値ブランディング****～ 長期的な社会価値の追求がこれからの企業ブランドを高める ～****講師：一橋大学大学院 国際企業戦略研究科
特任教授 名和高司 氏**

第187回定例研究会（10月度）10月31日（火）12：00～、AP秋葉原で開催しました。講師は一橋大学大学院 国際企業戦略研究科 特任教授 名和高司 氏。テーマは「CSV時代の社会価値ブランディング～ 長期的な社会価値の追求がこれからの企業ブランドを高める ～」。参加者は52名でした。



恋愛ゲームプロデューサーもPRパーソンも本質的には 同じ“コンテンツ業”。 「総合格闘家」的プランナーと一緒にやりましょう♡

Pacific Communications 株式会社
笹山 真琴

こんにちは。笹山真琴と申します。パシフィック・コミュニケーションズという、デジタルメディアに強みをもった新興PR会社を、TBSさんや宝島社さん、角川春樹事務所さん、扶桑社さん、マガジンハウスさんなどの大手メディア企業さまと協業でウェブメディアを構築・運営するメディア企業 INCLUSIVE のグループ会社としてやっています。広告代理店もPR会社もコンサルティングファームも、みなさんがPRを手掛けられる時代、覇者になるのはやっぱり、靈的な！？クリエイティブ×合理的な分析の総力戦で、かつネットワークよくいろいろな試みができる会社かなと思い、メディア企画から事業企画、データ分析、広告代理業まですべてを手掛けているIT企業「INCLUSIVE」でPR事業をすることを選びました。

今回は、私の“PR愛”というか、“コミュニケーション愛”みたいなものからの、これからのプランナーかくあるべしとう持論をお伝えできれば…。

私は2000年に総合PR代理店でキャリアをスタートしました。大学時代に光文社「JJ」でライターをしていて、そのときに様々なPRパーソン（すべて女性でした！）にお会いして、チャキチャキ明瞭元気（！？）にコミュニケーションしている彼女たちを見て、「私、この仕事向いてるかも？」と思ったこともきっかけです。当時からPRパーソンの方々が主張されるメッセージ（笑）を、結構気を回して記事に馴染ませて盛り込んで書くタイプの、ライターの的にはタイアップライター向き（笑）記者だったと思います。

最初のPR会社では、すごくきちんと育てていただいて、外資系消費財ブランドやエンターテインメント企業、家電メーカー、スポーツメーカーなどなど、主にコンシューマー向けの大手クライアント様たちの、マーケティングPRをたくさん担当させてもらいました。パブリシティ企画から遂行の基礎を固めることができましたので、「社会ゴトにしてネタをちぎっては投げる！」「とにかく露出とりまくる！」の修行はすごく重要だったな、と。“PRに愛された女”みたいな（！？）暴れぶりでしたよ！

しかし！当時はPR業界もまだまだ「4マス」とか言っちゃってる時代で、反面、ITメディアがガンガン立ち上がり、BLOGやSNS黎明期で、「このままITを駆使することをマスターしないままではコミュニケーションビジネスの覇者（！？）になれない！？」と直感した私は、一時PR業界から抜け出し、2年間の海外就業中にHTMLや画像ソフト編集技術なんかも習得し、コンテンツ企画のできるウェブディレクターを目指すのでした。

帰国後には「人間の行動の基本動機は“恋愛と戦い”。なので“恋愛と戦い”をテーマにしたコンテンツしか創らない」というユニークな女性向けコンテンツ企業に入社。そこで、モテるためのグッズの！？Eコマース事業や恋愛テクニックメディア、いまでは懐かしいデコ絵文字素材サイトから、最後はその企業の主力ビジネスになった女の子向けの恋愛シミュレーションゲームのプロデュースからゲームキャラクターグッズOEM開発事業まで手掛け、すっかり「コンテンツ&事業のヒト」に。(とかいってマインドはいつまでも“企画のヒト”なんです)

そこで大儲けできるような！？コンテンツ企画をしたり、予算を預かって回収率までウォッチして結果を出すガチな広告出稿、シナリオ展開やパナークリエイティブで死ぬ気でPDCAを繰り返すなんていう仕事が、いま戻ってきたPR業界でも俄然生きています。コピーライティングのテクニックも、広告効果測定やコンテンツ構築にしても、おおよそどのエリアにおいても本質的に考えるべきポイントが把握できるようになったと自負しています。このおかげで、PRの枠を超えてお任せいただけている仕事も多いです。

その後も日本最大手コスメサイトやフラッシュセールスのスタートアップなどのIT畑から、メディア編集の仕事などを経て、外資系戦略広報代理店でクライアントワークをしたりと、自分にとってはもはや「PR業」、「コンテンツ業」、「広告業」、「コンサル業」という境界線自体がナンセンスな気がしていて、ぜんぶ「コミュニケーション業」的なシームレスな捉え方をしています。

これからの時代、おこがましな作り手、発信者は、絶対そういうファジーなスタンスで、「ケミストリー」みたいなのを楽しむべきだと思うのです。自分にとってはADもPRもまるっと「コンテンツ」とか「エンタメ」とか、“コアの考案ありき、あとはアウトプット形態の問題だけ”、と考えています。あえて自身を「PRパーソン」と名乗るのもなんだかしっくりこなくて、なんかもっと“霊的”に、概念やコトバを作ってコンテンツをアウトプットしている、という感覚です。

弊社のニュースリリースの中で“コンテンツ・ドリブンPR”と名付けているものがあり、日頃、超忙殺されているデジタルメディア編集者やライターが、そのまま記事企画にできるコンテンツのスタイルで書くニュースレターなのですが、多くのデジタルメディアの方から非常に重宝がられます。

(それゆえに、出したいネタを、自分たちの望む方向性でスピーディに出してもらえます)

これも、親会社のメディア事業の現状や制作体制、ノウハウについて日々把握でき、かつ、自分自身もデジタルメディアの作り手であったがゆえに出てきた発想で、自分の中の“PR愛”と“コンテンツ愛”と“メディア愛”のミックスされた体現の1つというか。

あと、フツーに日本では労働人口もますます不足していきまますし、それでもクリエイティブなコミュニケーションやトレンドの創造を継続していくべき中で、マルチプランナー(意味するのは、1つのものを複数アングルで料理して、複数のスタイルのアウトプットができる人、のような)の存在がもっと求められていきます。

「切り口を作ってメディアにアプローチして」とか「広告クリエイティブをディレクションして」とか「企業のブランディングサイトで面白いコンテンツを作って」とかを分業している場合ではなく、ワンストップでプロデュースできる手腕がどんどん求められてくると思います。そういう「総合格闘家」の時代がいつかくると思ってやってきましたが、今、やっと、20年弱経って(笑)来ましたね!

そんなプランナーを目指す仲間たちと切磋琢磨して、いろいろなことを仕掛けていくのがパンフィック・コミュニケーションズですので、ご興味ある方はぜひお気軽にご一報ください♡
まずは飲みに行きましょう(笑)

<コラム関西の風>

最近の企業不祥事に思う

一般財団法人アジア太平洋研究所
代表理事 岩野宏

またもや、企業の不祥事です。神戸製鋼所に日産自動車、そしてスバルも、とのことです。1枚皮をめくると後から後から出てくるという様相で、日本のモノづくりの誇りはどこへ行ってしまったのか、という気持ちにもなります。しかし、筆者は安全衛生や品質保証の専門家でも、安全規制に深く関わってきた者でもありませんが、ここで一歩立ち止まって、今回の事象で本当に考えなければいけないことは何なのか、ということに思いを馳せてみたいと思います。

今回の件で一番腑に落ちないことは、本件は安全性にかかるルール違反、それも長年にわたりルールを犯してきたにもかかわらず、本件との因果関係が認められる事故や不具合はいまだに報告されていないことです。神戸製鋼所の問題と日産自動車の問題は、片や顧客に対する契約違反、他方法令違反ですので、ルール違反と一括りに論じることは適切ではないかもしれませんが、ルール違反しても安全性に影響が出ない安全のルールとは一体何なのでしょう。

もちろん、ルールで設定されるレベルと実際に事故が発生するレベルとの間には当然バッファがあり、ルール違反したら直ちに事故となる訳ではないし、あるレベルまでは100%安全で、それを少しでも超えると直ちに事故が起きるといってもいいので、論理的には、ルール違反により事故や不具合の発生確率は高まっているが、たまたま、これまで現実には問題が起きていないだけ、という解釈になるのでしょうか。しかし、それにしても、長年にわたりルール違反しながらそれに伴う事故は起きていない、というのはいささか不自然ではないでしょうか。

ルールが過剰品質だった面もあるでしょう。これは、いかにも日本企業にありがちな話です。また、神戸製鋼所の件はデータの改ざんですから、内容次第で安全に直接影響する問題もあるかもしれませんが、日産自動車の件は安全性を担保する方法に対する違反ですから、直接安全性を揺るがすものではありません。より具体的に申し上げれば、無資格者による検査はルール違反ではありますが、ベテランの無資格者による検査と、新米の資格者による検査と、どちらがより安全か、という点に帰着するような論点もあるのではないのでしょうか。

安全第一であることはいうまでもありませんが、何があっても完璧な安全というのは期しがたく、消費者の立場からすれば、一定の安全性が担保されれば、あるいは同レベルの安全性であれば、できるだけ安い方が良く、という側面もあります。今回の不祥事は企業のコンプライアンス違反であることに変わりはなく、その限りにおいて神戸製鋼所や日産自動車が擁護されるものではありませんが、敢えて誤解を恐れずに申し上げれば、安全性が目に見えて損なわれるものでない限り、できるだけコストを削減して安くしてほしい、というのも消費者の本音です。

だから少々ルール違反しても構わない、とは申しません。マスコミも、こうした不祥事を批判し正していくべきです。しかし、社会問題としては、実質的な安全性の議論も見逃ごせないのではないのでしょうか。この点については、「これまでのところ、実際に安全性に関わる問題は見つかっていません(メデタシ、メデタシ)」というトーンの記事が多いように感じます。もちろん、安全性に関わる問題が見つからないことはメデタシなのですが、そこで終わって良いのでしょうか。いささか不謹慎な表現となりますが、大企業の不祥事はたしかに世間の関心を惹きますので、報道もそこに焦点が当たりがちになります。しかし、違反しても安全性に問題が生じない

安全性のルールのあり方にも一石が投じられてしかるべきように思います。

一般の人にとって、安全性の担保はより直接的な影響のある問題です。何となれば、違反しても安全性に影響を及ぼさない安全のルールがあるのであれば、遵守していても安全性が担保されない安全のルールもあるかもしれません。

不正は不正で批判されるべきですが、それと安全性の議論は一緒にするのではなく、しっかり分けて、安全性の議論ももっと展開されるべきではないでしょうか。不正を問い質すことはマスコミの重要な役割ですが、一般の人が直ぐには気付かない、その裏に潜む本質的な問題を審らかにしていくことは、それにもまして求められる役割だと思います。また、国民の側も、噂話的な議論に終始することなく、マスコミが提起した論点にしっかり向き合っていくこと、それが、国としての、あるいは国民としての熟度でもありましよう（もちろん、私自身も含めて）。

先に述べたように、神戸製鋼所の問題と、日産自動車の問題は、契約違反か法令違反かという点で違いますし、直接安全性に関わるかもしれないデータの取り扱いの問題か、安全性を担保する方法論の問題かという点でも異なります。過去の類似の不祥事には、このいずれとも異なる事象もあるでしょう。これらを「企業の不祥事」と一括りにして報じてしまうと、逆に問題の本質が覆い隠されてしまうのではないかと、という懸念を覚えます。

また、去る 11 月 10 日に、神戸製鋼所の社内調査報告書が公表されました。これについても、「まだ原因究明が不十分」といったトーンの報道が多かったように思います。私は専門家ではないので、報告書の内容の妥当性についてここで論じるつもりはありません。不十分な点も多々あるので、その指摘までで終わってしまっても良いのか、という思いがあります。

混乱状態にある中での社内調査で長年にわたり行われてきた不正の全容を解明することは、表面的な事実関係を把握するだけでも容易ではなく、ましてやその裏に潜む企業文化の問題などを掘り下げていくことは、至難の業だと思います。ひょっとしたら日本のモノづくりの現場を買い被りすぎているかもしれませんが、様々な不正行為の中で、これで事故が起きるかもしれない、と思いつつ不正を働いている事例は決して多くないと思います。「慣れ」で安全性にかかる感覚が鈍っている場合は論外ですが、ここまでは安全上問題ないとキッチリ見極めて、「確信犯」的に違反している事例も少なくないと思います。

もちろん、現場がキッチリ見極めて安全性を担保していればそれで十分ではないかと主張するつもりは毛頭ありません。現場にそういう力があることは非常に重要だし、誇りでもあります。それがしっかりルールで担保されることもまた重要です。しかし、一市民、一企業人としては、様々な不祥事を報道してきたマスコミには、日本企業にありがちな企業風土や安全文化、その長所と、一方でその中に巣食う問題をもっと喝破して頂きたい、と期待するところです。

PRSJ in Media

● 11月1日（水） 『月刊広報会議』12月号

『月刊広報会議』12月号における当協会のコラムで、「アンバサダープログラム」をテーマとして開催したPRスキル研究会の様様について掲載されました。

コラムでは、研究会に講師としてアンバサダープログラムの第一人者であるアジャイルメディア・ネットワークの徳力基彦氏を迎え、「アンバサダープログラム」の定義からその仕組みや特徴について解説が行われたことを紹介しています。さらに、SNSの活用のためには、傾聴、会話、活性化、支援、統合といった、5つの戦略的視点が求められことなどについて解説されたことを伝えています。

●11月1日（水） 『月刊Gift Premium』11月号

『月刊Gift Premium』11月号において、当協会が実施した「PR業実態調査」の結果について記事掲載されました。

本記事では、まず本調査が6回目を迎えるとともに、204社を対象に実施し64社から回答を得たことに触れています。さらにPR業界全体の売上高は初めて1000億円を越えて1016億円となり、前回調査時に比べ7.2%、68億円伸びたことを紹介しています。あわせて、PR会社の人数規模、今後の売上見通しや景況感、取扱い業務の傾向及びPR業務における重点課題や経営課題などについて、調査結果をもとに報じています。

（事務局・真部）

編集担当から

会員のみなさんの情報をお寄せください！！

本誌では会員の動向・消息や、会員から会員へのお知らせなどを積極的に掲載いたします。ビジネスに直結する情報に限らず、会員交流に関するものでも結構ですので是非ご一報ください。

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・ご希望をお寄せください。
中身の濃い会員誌に育てていきたいと思っておりますので、
よろしくお願い致します。

広報委員会

Eメール mail@prsj.or.jp

FAX 03-5413-2147

※ 禁転載